

東京都心で働く若い世代の流入が増えている千葉県

つなげたいとの思いもある。「千葉都民」「埼玉都民」と呼ばれるほど東京都心へ通勤する人も多い。両県の自治体は地域の特徴を生かし、地元で起業してもらおうと積極的に支援する。

(随時掲載)

千葉 VS 埼玉

千葉、埼玉両県では企業誘致を進める一方で、「中から」企業を育てる動きも活発になっている。雇用の創出や法人税収の確保だけでなく、起業に関心のある若い世代やアクティブシニアを刺激し、地域経済の活性化や人材の定着に

元素周期表に「ニホニウ」の名を刻んだ研究所と

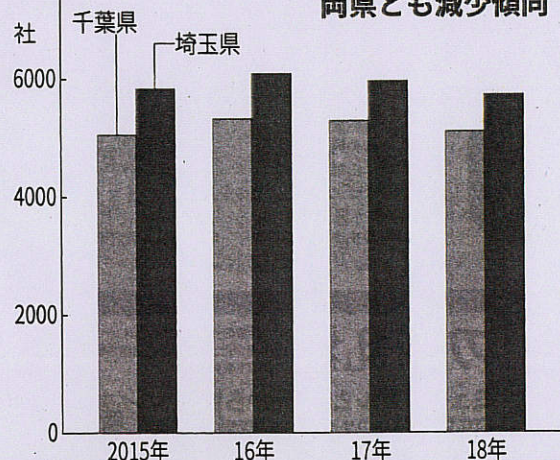
松戸、ベッドタウン脱却

北西部だが、松戸市はそんなベッドタウンからの脱却を目指している。市内の起業を促そうと4月、インキュベーション施設「松戸スペースアップオフィス」を開業した。JRや新成電鉄が乗り入れる松戸駅から

施設開業し環境整備

徒歩約3分の好立地だ。起業志望者向けの個室やブース席は開業から2カ月で8割が埋まる人気ぶり。市商工振興課は「想定以上にニーズがあった」と驚く。

新設法人数は両県とも減少傾向



(出所)東京商工リサーチ千葉・埼玉支店

起業支援

して有名な埼玉県和光市の理化学研究所。日本を代表する研究者を輩出してきたこの拠点で、起業家を育てる取り組みが進んでいる。理研の施設内に2008

和光、理研ブランド活用

技術シーズ・知見提供

年に開設した「和光理研インキュベーションプラザ(WRIP)」。研究室仕様の居室に起業家が同居し、理研の技術シーズや知見を活用しながら創業や事業展開を目指す施設だ。バイオや化学、ものづくり

系など、幅広い基礎研究を手掛ける理研の「懐の広さ」で起業家を受け入れる。体臭分析サービスのオーダーメイドは薬品や実験機を使い、理研の技術シーズや知見を活用しながら創業や事業展開を目指す施設だ。バイオや化学、ものづくり

が広がっている。交流が活発になる。19年度は大手企業と連携したプログラムを検討している。研究者が長年積み重ねてきた基礎研究を商品やサービスに落とし込むには

を分ける



事業計画作成や資金調達を支援するワークショップも開く(埼玉県和光市の理化学研究所内)



新たな起業支援施設には起業志望者が集まる(松戸市)

18年度に受講した佐藤晶子さん(34)は「先輩起業家の経験に基づいた実践的な内容だった」と振り返る。「創業仲間が近くにいるのが心強い」と18年12月、市内で起業した。起業支援を通して生まれた仲間の存在が街の活性化につながっている。(貴田岡祐子)

住宅を

が続けているが、その多くは東京都心に通勤する人たち。昼間人口の少なさが課題となっている。企業誘致にも取り組んでいるが、市内で企業を育てていくことで「新しい雇用を市内に生み出し、税収増につなげた。子育てのために一度

離職した母親をサポートしたい(市商工振興課)と2015年から女性向け創業スクールを開講した。市内で起業した先輩女性経営者を講師に招いて、商品開発やプレゼンテーションの講座などを開き、これまで創業したのは27人にとどまる。

住友